

令和2年度事業計画書

公益財団法人 北九州活性化協議会

目次

（ 概況 ）	…………… P 1
（ 事業計画 ）	
I 公益目的事業 1	
北九州市地域の活性化に関する調査・研究を行うとともに、行政及び関係団体と 活性化施策の総合的な調整を行うことによって、北九州地域の発展に寄与すること を目的とした事業	
1 “もったいない”を未来に引き継ぐ事業 （もったいない総研事業）	…………… P 2
2 産業人材を育成する事業 （北九州地域産業人材育成フォーラム事業） ※別紙1 参照	…………… P 3
3 次世代を担う人材を育成する事業 （「北九州の企業人による小学校応援団」事業） ※別紙2 参照	…………… P 3
4 都市格（文化力・教育力）を向上する事業 （「1000人の夢寄金」事業）	…………… P 3
5 まちづくり推進事業	…………… P 6
II 公益目的事業 2	
北九州イノベーションギャラリー指定管理者事業 ※別紙3 参照	…………… P 8
III 法人運営事業	…………… P 8
「公益法人法」を遵守することにより、法人運営を適切に維持・管理し、かつ、 当協議会の公益目的事業を円滑に遂行するために必要な、組織運営体制および 財務基盤の強化を図る。	

（概況）

令和2年度のKPEC事業は、産学連携による工学系技術人材の育成を目的とする「北九州地域産業人材育成フォーラム事業」、北九州市の小学校教育の環境支援をする「北九州の企業人による小学校応援団事業」、市民の教育、文化活動の支援を通じて都市格の向上を図る「1000人の夢資金事業」を推進する。

「もったいない総研事業」については、「北九州紙えこっパー」の普及事業を拡充すると共に、「北九州市の文化財を守る会」との共同事業体による旧百三十銀行ギャラリーの運営事業をベースに、近現代建築遺産の保存・継承及び活用についての研究を行う。

指定管理事業である北九州イノベーションギャラリー（KIGS）については、地域産業界との連携による特徴ある事業企画の開発を行うと共に、産業人材育成フォーラム事業や北九州マイスター事業、世界文化遺産関連施策等との連携を図りながら、北九州市の産業・技術継承とものづくり人材の育成という目的の実現に向けた事業の開発、運営を行う。

また、法人運営事業については、「公益法人法」を遵守することにより、法人運営を適切に維持・管理し、かつ、当協議会の公益目的事業を円滑に遂行するために必要な、組織運営体制および財務基盤の強化を図る

令和2年度の事業計画は以下のとおりである。

事業計画

I 公益目的事業1

北九州市地域の活性化に関する調査・研究を行うとともに、行政及び関係団体と活性化施策の総合的な調整を行うことによって、北九州地域の発展に寄与することを目的とした事業。

1. “もったいない”を未来に引き継ぐ事業（もったいない総研事業）

KPECの創立10周年事業として創設した「もったいない総研」の運営理念を踏まえた地域活性化事業の企画、開発及び事業化を行う。

1) 「北九州紙 えこっパー」の普及によるSDGsの推進

(1) 『北九州紙 えこっパー』の普及強化の実施

『北九州紙 えこっパー』（古紙・牛乳パックを再利用したりサイクルトイレットペーパー）は令和元年度「北九州エコプレミアム（選定検討会委員特別賞）」に選定された。この「北九州エコプレミアム」の選定を有効活用して、『北九州紙 えこっパー』のさらなる認知向上及び普及強化を図り、地域循環サイクルの実現を通してSDGsを推進する。

(2) 「北九州紙 えこっパー」による環境教育の実施

全国牛乳容器環境協議会や北九州の企業人による小学校応援団事業等と連携して、牛乳パックリサイクル製品である「北九州紙 えこっパー」の企画意図と製作過程を環境教育教材にした出前授業を継続実施する。

2) “もったいない”の概念を踏まえたシビックプライドの醸成事業の開発

(1) 「旧百三十銀行ギャラリー」の指定管理事業の運営及び地元遺産の認知・保存活動の推進

「北九州市の文化財を守る会」と協働で実施する旧百三十銀行ギャラリーの管理運営（5年間）を円滑に実施すると共に、本事業を通じて、地元遺産の認知・保存活動の推進を行う。

【令和2年度の関連行事開催予定】

- ・北九州由来の歴史講演会の開催（年2回）
- ・北九州由来の戦争遺産パネル写真展（夏開催）
- ・北九州由来の煉瓦建造物の世界（冬開催）

2. 産業人材を育成する事業

地元理工系大学・高専等と中堅・中小企業との協働による産業人材育成の地域システムの構築と、これを活用した地域企業の経営力（人材力）強化と雇用環境の改善を図るため、「北九州地域産業人材育成フォーラム」を編成し、青少年から社会人に至る産業人材育成の地域システム創りとその持続的発展の仕組み創りを進める。

※事業計画の具体的内容は、

「令和2年度北九州地域産業人材育成フォーラム 事業計画書」（別紙1）の通り

3. 次世代を担う人材を育成する事業（北九州の企業人による小学校応援団事業）

北九州の将来を担う子どもたちの健全育成を目指し、北九州市内の企業・経済団体等が連携して、市内小学校(129校)の児童、教員および保護者を対象に、学習支援（出前授業、見学受け入れ）、教職員・保護者の研修支援（講師派遣、見学受け入れ）、保護者のPTA活動支援などの教育支援に取り組む。

※事業計画の具体的内容は、

「令和2年度北九州の企業人による小学校応援団 事業計画書」（別紙2）の通り

4. 都市格（文化力・教育力）を向上する事業（1000人の夢寄金事業）

教育と文化を、都市格（都市の品格）向上の重要な基本要素と考え、北九州市の教育力・文化力を高め、真に魅力あるまちづくりを進めて行くために、北九州をより楽しく、住みたくなるまちにしようとしているひとたちや北九州の素晴らしい自然、文化を世間に広めようとしているひとたちを支援するために、市民の寄付を募り、教育や文化的活動を行う市民活動に対して活動費用を助成する「1000人の夢寄金」（以下、夢寄金）事業を推進する。

1) 「1000人の夢寄金」募金事業

事業推進の基盤として、1000人の夢寄金寄付者の拡大を図るために、新たに募金事業の組織化を図り、寄付金募集の方法と仕組みの検討を行う。

(1) 寄付金寄付募集体制の確立

① 基本寄付（個人会員1口3千円、企業会員1口1万円）募集体制の継続

② 寄付金受け入れ方法の検討

KPECの寄付金事業と連携した多様な寄付形態（遺贈、香典返し等）に対応できる受け入れ制度の研究と受け入れ態勢の整備を図る。

③ 寄付金受け入れのための環境整備の実施

i) 預金口座振替による寄付金の受け入れの拡充実施。

寄付者の利便性向上策として実施した、口座引落しによる寄付金口座振替の一層の推進と拡充を図る。

ii) Web機能を活用した寄付金受け入れ機能の拡充

ホームページの拡充、Facebookの活用、メーリングリストの使用頻度UP等を行い、「1000人の夢寄金」のメディアへの露出度UPおよび寄付者の利便性向上対策を推進する。

iii) 寄付者の定着化対策の実施

「1000人の夢寄金」の趣旨を踏まえて、寄付者に対する礼状の定期発送等の寄付の定着対策の実施と、その方法等についての研究を行う。

(2) 寄付金募集のためのプロジェクト寄付事業の企画、運営

① 1000 人の夢寄付金チャリティーゴルフコンペ企画・開催

(参加者目標 :100 人・寄付金目標 : 300 千円)

② 1000 人の夢寄付金チャリティーバザーの企画・開催

チャリティーバザー“クラフトチクチク de マルシェ”を継続開催する。

(寄付金目標 : 300 千円)

③ ボランティアグループ『シマウマ組』との連携強化

“クラフトチクチク”の企画・運営より誕生した、「縞縞のシマウマ」と「時々ヨコシマなカバ」のぬいぐるみを制作するボランティアグループ『シマウマ組』との連携強化に向けた取り組みを行う。

2) 「1000 人の夢寄付金」助成事業

「1000 人の夢寄付金」の趣旨を踏まえて、将来、北九州の都市格を高め、“キラリ”と光る存在となる可能性を秘めた活動、小規模ではあっても独自性に富むユニークな活動など、他の補助金等では評価されにくい、支援されにくい活動に重きをおいて、助成先の募集及び選定方法を研究する。

(1) 助成事業の募集

① 助成事業の応募促進対策の実施

北九州市の文化、教育関係分野や北九州市内の各種文化振興団体等との連携を図り、1000 人の夢寄付金の趣旨を周知すると共に、助成対象事業の発掘を促進する。

② 助成事業の実施状況及び助成効果の確認の実施

対象事業の終了または事業年度終了時に事業完了報告書の提出を義務付け、実施状況及び効果の確認を行う。また、各対象事業実施時に担当者が極力現場に出向き実際に実施状況を確認し、ホームページ・Facebook などで広報に努める。

③ 助成先事業の紹介

ホームページ、Facebook 等で助成先事業を紹介し、「1000 人の夢寄付金」事業の認知度向上を図ると共に、助成先の新規開拓に繋げる。

(2) 助成先の選定

① 「1000 人の夢寄付金・審査委員会」の運営

公平、公正、公明性を保ちながらも、独自性のある助成先の選定を行うため、審査項目の見直しや審査委員会運営方法の見直しなど実施する。

② Web 投票の実施

助成審査の見える化と事前の公開投票による一般的な評価を確認し、審査委員会での参考資料とするため Web 投票を継続実施予定。

3) 広報・プロモーション事業の実施

「1000人の夢寄金」の周知を図り、寄付金の拡充と事業運営への志ある市民参加を促進すると共に、助成対象関係者の認知度向上のための広報等を実施する。

(1) ホームページ及び Facebook の運営

ホームページおよび Facebook 等により、寄付者情報、助成先情報、その他活動情報等をタイムリーに発信すると共に、メールリストによる事務の効率化を同時に図る。

(2) 「1000人の夢寄金」事業報告書の作成

前年度事業報告書を作成（6月）し、寄付者に対する事業実施状況の報告と助成事業説明資料として助成先の活動の周知を図ると共に、新たな寄付者、助成先の開拓のツールとして活用する。（年1回）

(3) ポスター、パンフレット等の見直し

1000人の夢寄金事業発足から7年が経過し、逐次修正を行ってきたが、現状に適合しない部分も出てきたため大幅な見直しとリニューアルを行い、今後の寄付金増収のツールとして活用していく。

4) 「1000人の夢寄金」運営委員会の設置

夢寄金の寄付金募集事業、活動資金助成事業、広報・プロモーション事業、その他事業の全般を統括し、機動力のある運営体制を構築するため、「1000人の夢寄金運営委員会」を設置し、事業の推進行うとともに、将来の方向性などの検討を始める。

5. まちづくり推進事業

北九州地域の活性化のための各種事業の企画、開発及び運営に必要な研究・調査を行うと共に、事業の運営基盤となる産学官民の連携軸の構築等のまちづくり推進事業を実施する。

1) まちの活性化推進事業

(1) 新規事業の企画開発のための調査・研究の実施

創立30周年を機に、KPECの新しいまちづくり事業の方向性と企画を検討するため、北九州市の各分野の代表者のインタビュー結果を踏まえ、中期的な新規事業の事業化のための基本計画を編成する。

特に北九州市が推進するSDGs未来都市と呼応して、SDGsビジョンと関連の高い事業の企画開発を進める。

<過去の事例>

- ・創立10周年事業企画：もったいない総研事業
- ・創立20周年事業企画：産業人材育成フォーラム事業、小学校応援団事業
1000人の夢寄金事業

(2) 地域づくりネットワークの構築

公益財団法人としての組織的環境を活用し、産学官連携による地域づくりの視点を踏まえた地域活性化事業を推進する。

① 北九州地域経済団体連携フォーラムの運営

北九州市内の経済団体による「北九州地域経済団体連携フォーラム」(事務局KPEC)を編成し、各種の情報の共有と事業運営における連携、協働の環境づくりを行う。

i) 共同プロモーション事業の実施

各団体の保有する各種情報及び事業について、共同広報や参画支援等の事業運営にかかる協力、支援を行う。

ii) ギラヴァンツ北九州支援の実施

「ミクニワールドスタジアム」をベースとした、ギラヴァンツ北九州による地域活性化を期待し、経済団体連携フォーラムとして出来る支援を実施する。

② 地域づくりネットワーク福岡県協議会への参画

「地域づくりネットワーク福岡県協議会」へ参画し、地域活性化施策の研究、調査及び研修を行うと共に、北九州市域の地域づくり団体との橋渡しを行う。

(3) まちづくり事業の支援、協働の実施

① 北九州ミュージックプロムナードの支援

平成8年にKPECの提唱で始まった北九州市民参加交流型の音楽フェスティバルとして定着している「北九州ミュージックプロムナード実行委員会」に参画し、運営を支援する。

② 北九州市にぎわいづくり懇話会への参画

ビクターズ・インダストリー創出を目的とした「北九州市にぎわいづくり懇話会」に参画し、行政と協働でにぎわいづくり事業の企画、実施を行う。

2) まちの活性化に関する情報発信事業

(1) 情報受発信の強化

KPECの運営趣旨と活動及び地域活性化に関する各種情報を地域に伝えるための情報発信事業を推進する。

① KPECニュースの発行

KPECの運営及び事業を、KPEC会員及び関連団体に広く広報するために、KPECニュースを発行する。(発行回数：年1回(6～8月)・発行部数：1000部)

② ホームページの運営

KPEC事業活動情報のタイムリーな発信事業運営の環境を周知するため、専用ホームページの充実、運営を行う。

③ メール送信システムの整備

KPECの円滑な事業運営と会員企業等への情報提供のために、関連企業及び連携組織等のメーリングリストの整備による地域ネットワークを構築する。

II 公益目的事業2：北九州イノベーションギャラリー指定管理者事業

北九州地域の「人材」「技術」「産業遺産」の3つの資産を活用し、新たなイノベーションへとつながる（1）人材活用・の育成、（2）産業技術の保存継承（技術の知と心の継承）、（3）技術革新（イノベーション）の機会の創出を行い、人・知を結集し、北九州の発展に必要な新産業を生み出すとともに、北九州イノベーションギャラリーを媒体とした技術教育を通じ、世界に貢献できる人材の育成を目的とした北九州イノベーションギャラリー指定管理者事業を実施する。

（指定管理期間の延長について）

北九州市が進める“新科学館”構想の中で、北九州イノベーションギャラリーを新科学館の分館とする計画が推進中。その中で、令和3年度からイノベーションギャラリーの建物・設備の改修されるため、令和2年度1年間に限り、当協議会が指定管理事業の延長を受諾することを市議会にて決議された。

※事業計画の具体的な内容は、

「令和2年度北九州イノベーションギャラリー指定管理者事業計画書」（別紙3）の通り

III 法人運営事業

「公益法人法」を遵守することにより、法人運営を適切に維持・管理し、かつ、当協議会の公益目的事業を円滑に遂行するために必要な、組織運営体制および財務基盤の強化を図る

1. 事業運営体制の検討

1) KPECの事業運営・管理体制の強化

KPECの経営管理について、事業運営フレームの改廃、改善及びコスト削減を図ると共に、新しい収入財源の開拓・研究等を進め、経営体質の改善・強化を進める。

(1) 経営基盤の強化に資する事業開発・開拓

主要事業を活用した新規事業の開発及び外部資金の活用研究、また、新規指定管理等の受託事業の開発など、経営基盤の強化に資する事業開発・開拓について環境調査及び事業化を推進する。

(2) 寄付金事業の事業化

公益財団法人の組織的環境を活かしたKPEC寄付金事業の確立等の研究を実施する。

2) 事業運営体制の整備促進

「北九州地域産業人材育成フォーラム事業」「北九州の企業人による小学校応援団事業」等、事業の地域における位置づけが確立し、地域システム化が進んだ事業については、KPECの役割と各事業における関係機関・組織等（ステークホルダー）の分掌を明確にして、事業の自立化あるいは他団体への事業の継承に向けた環境づくりを行う。

3) 会員募集と会員サービスの向上

(1) 会員募集の強化

当協議会の経緯・事業内容を纏めた『KPECパンフレット』および令和元年度発行の『創立30周年記念誌』を活用して、新規賛助会員募集を行い、財務面、運営面双方の経営体質強化を図る。

(2) 会員サービスの向上

会員管理体制の整備により、KPECが実施または支援する各種地域活性化事業への案内、及び行政や他団体からの講演会開催等の情報提供の徹底を図り、会員との協働による地域活性化事業の推進体制を構築する。

2. 会議等の実施

定款等に基づき、所定の会議を開催する。

- (1) 定時理事会の開催 (5月、2月)
- (2) 定時評議員会の開催 (6月、3月)
- (3) 執行役員会議の開催 (月1回)

別紙 1

北九州地域産業人材育成フォーラム
令和 2 年度事業計画書

I 概況

「北九州地域の産学官連携により、産業人材を育成する」目的で平成23年5月に設立された「産業人材育成フォーラム」事業も設立から8年が経過し、これまで①高度人材育成を目的とした、各種インターンシップの実施 ②中堅・中小企業の中核技術者、経営人材の育成を目的とした、地域大学の大学院を活用した各種プログラムの実施 ③産学連携による早期工学教育の環境づくりを目的とした、ものづくりに関する教育機会づくりや早期工業教育の開発・実施と、国や北九州市が推進するインターンシップ、リカレント教育、まち・ひと・しごと創生総合戦略による地方創生インターンシップの推進等と連動した各種事業を実施してきた。

これらの事業の定着とともに、学生への地元企業の認知度向上やインターンシップ参加者の地元企業への就職等の成果も着々とでてきた。しかしながら、インターンシップを取り巻く課題（単位の問題、キャリアアップ型の推進）や Society 5.0 への対応等、産学官の連携で対応しなければいけない課題が多くあり、今後も、フォーラム事業の中核機能となる産学官の連携がますます重要になっている。

こうした環境を踏まえ 2020 年度の産業人材育成フォーラムは以下の事業を実施する。

1. 高度人材育成プログラム

- 1) 地域連携型インターンシップ事業の拡充、実施
- 2) 連携校における地域連携型インターンシップの周知と参加促進事業の実施
- 3) 地域連携型インターンシップ運営のための環境整備

2. 社会人育成プログラム

- 1) 中堅・中小企業の経営・管理者育成に向けたプログラムの支援
- 2) MBAホルダーによるMOT(技術経営)特論講座の企画、環境整備の支援
- 3) 中堅・中小企業の中核技術人材等の育成に向けた支援

3. 青少年育成プログラム

- 1) 北九州地域科学・工学教育情報マップ“かがたま”の運営・管理
- 2) 「北九州イノベーションギャラリー」と連携した事業の企画、開発、モデル化
- 3) 「北九州の企業人による小学校応援団」と連携したものづくり教育の環境づくり

4. 産業人材育成の地域クラスター形成に向けた環境整備

- 1) フォーラム協働企業の有志会員化の推進
- 2) フォーラム事業の広報システムの構築とプロモーション事業の実施

II. 事業計画の内容

1. 高度人材育成プログラムの企画、運営

「地域連携型インターンシップ」の中核事業である「研修型(短期)インターンシップ」の拡充を図るとともに、産学双方のニーズを確認しながら、「実践型(長期)インターンシップ」の環境整備と拡充を強化する。また、北九州域外の大学生等に対応したインターンシップの環境づくり、および留学生対象の「地域企業研究型(短期)インターンシップ」の企画、開発を行う。

1) 地域連携型インターンシップ事業の拡充、実施

(1) 研修型(短期)インターンシップ事業の拡充、実施 (継)

大学から職場・社会への円滑な移行のための社会人基礎力の修得と、地元中堅・中小企業の認知向上による就職機会の創出等を目的に、連携校と協働で「研修型(短期)インターンシップ」事業を実施する。令和2年度は、学生と企業の確実なマッチングを目指して活動を実施する。

また、平成30年度からフォーラム事業に参画している産業医科大学環境マネジメント学科の研修型(短期)インターンシップの運営スキームの支援を図る。

《研修型(短期)インターンシップの実績推移》

	H27年度		H28年度		H29年度		H30年度		R元年度	
	登録	実施	登録	実施	登録	実施	登録	実施	登録	実施
学校(校)	5	5	5	5	5	5	6	6	6	6
企業(社)	95	67	88	53	88	39	83	32	86	39
学生(人)	135	118	103	90	74	65	74	65	85	76

① インターンシップの対象拡大と柔軟な対応 (新)

域外工学系大学生への北九州地域企業の認知度を向上し、留学生へも情報がとりやすい環境を整え更なるとインターンシップの拡大を図る。

また、学生がインターンシップを利用しやすい環境を創るため、インターンシップ受入時期や期間等の柔軟な対応を引き続き行う。

② キャリアアップ型インターンシッププログラムの開発と環境づくりの推進 (継)

連携校における学生のキャリア形成と就職指導とを有機的に組み合わせて、年次に合わせて段階的にステップアップする『キャリアアップ型インターンシッププログラム』の開発と環境づくりを行う。

(2) 実践型(長期)インターンシップ事業の環境整備と拡充 (継)

将来の産業を担う人材育成のため、企業、学校、学生に実践型(長期)インターンシップの更なる理解を促し、産学協働による環境整備と拡充を行う。

《実践型（長期）インターンシップ実績推移》

年度	H30 年度	R 元年度
学校(校)	1	1
企業(社)	7	6
学生(人)	11	8

① 実践型(長期)インターンシップ参加者増加のための施策の実施

インターンシップ受入企業の企業情報や研修内容および実際に体験した学生の声など、学生に参加を促す情報をタイムリーに提供し、実施企業および参加学生の拡大を図る。

② 北九州高専の実践型(長期)インターンシップコースの拡充支援（継）

北九州高専の長期インターンシップ（本科、専攻科）の参加企業拡充に向けての支援を行う。

《北九州高専長期インターンシップ実績推移》 ※フォーラム協働企業のみ

	H30 年度		R 元年度	
	専攻科	本 科	専攻科	本 科
企業(社)	9	13	6	17
学生(人)	10	18	8	24

2) 連携校における地域連携型インターンシップの周知と参加促進事業の実施

「地域連携型インターンシップ」事業の運営目的と活用意義を学生及び学内関係者に周知し、インターンシップ参加を促進するための各種事業の企画、開発、運営を行う。

(1) 北九州地域企業研究・交流会の企画、開催（継）

学生、大学教員・スタッフ等の関係者の地元企業の認知促進を目的として、インターンシップを実施する北九州地域企業の企業研究・産学交流会を開催する。本事業は、COCプラス事業とも連携して、インターンシップ連携校コンソーシアムにより企画、運営する。

◇名 称「北九州地域企業研究・交流会（仮称）」

①ひびきの会場

日 時：2020年5月20日(水) 又は6月3日(水)13:00～17:00

場 所：北九州学術研究都市 会議場イベントホール

対象校：北九大(工学部)、九工大、早稲田大、産業医科大

②戸畑会場

日 時：2020年5月28日(木) 13:00～19:00

場 所：九州工業大学 戸畑キャンパス（記念講堂、中村記念館、生協食堂）

対象校：九工大、西工大、北九州高専、北九大(北方)

※COCプラス関連大学は、2会場ともに参加可とする。

(2) 「北九州地域産業人材育成フォーラム」ホームページの拡充（新）

連携校におけるインターンシップ参加、地元就職促進のための地元企業情報の周知促進ツールとして、北九州地域産業人材育成フォーラムのインターンシップホームページの充実を行う。

《追加コンテンツ》

- ・企業情報の更新および動画（KIGS 保管の DVD）の配信（予定）
- ・インターンシップ体験談（動画）の掲載

(3) 連携校における各種事業プロモーションの実施環境の整備（継）

連携校において実施する「インターンシップガイダンス」のプロモーションや広報チラシの配布等の学内プロモーションについて、学生の行動パターンに合わせたプロモーション方法の企画検討・支援を行う。

3) 地域連携型インターンシップ運営のための環境整備

(1) 地域連携型インターンシップ運営のためのコーディネート機能の強化（継）

北九州テクノサポート（K T S）のインターンシップのコーディネート機能を強化し、合わせて支援を行う。

(2) インターンシップ事業の円滑運営のための各種アンケート・調査の実施（継）

インターンシップに関連する各種アンケート・調査を実施、分析し、今後のインターンシップ事業運営に活用する。

《インターンシップ関係調査》

- ・地域連携型インターンシップ実施後学生の意向調査(全大学: I S実施学生)
- ・地域連携型インターンシップ実施企業の事業実施後状況調査(I S実施全企業)
- ・連携大学・高専におけるインターンシップ実施状況調査(全大学、全学部)

《就職状況関係調査》

- ・連携大学・高専における地元就職状況調査（全大学・全学部全学科別）
- ・地域連携型インターンシップ参加学生の地元就職状況調査（全大学・全学部）

2. 社会人育成プログラム事業の支援

地域企業の中核専門人材の育成と経営管理者の育成を目的として、北九州市立大学大学院マネジメト研究科（以下「K 2 B S」）と連携した、経営者・管理者育成のための事業の支援を行う。

1) 中堅・中小企業の経営・管理者育成に向けたプログラムの支援

K 2 B Sと連携して、K 2 B Sの環境を活用した地域企業の経営者・管理者育成のためのプログラムの支援を行う。

(1) 中堅・中小企業向け「採用力強化セミナー」の開催・支援(継)

中堅・中小企業の経営者、総務・人事担当者の採用力を強化するために、K2BSと連携して「採用力強化セミナー」を開催する。このセミナーを契機に北九州大学ビジネススクール(MBA)受講による経営者・管理者育成の有用性をPRする。

《採用力強化セミナー概要》

- ・ 講座形式 : K2BS 教員によるセミナー(座学方式)
現役学生も参加し、社会人メンバーと混成チームを作り実践的な採用・面接を考える。
- ・ 開催時期 : 令和2年8月～12月(予定)
- ・ 開催場所 : 北九州市立大学サテライトオフィス(仮)

(2) 経営管理者のための「実践経営学講座・車座塾」の支援(継)

K2BSがとりまとめた地域企業のレポート(新事業創造や事業承継等の事例)を教材として、中小企業経営・管理者を対象にした「実践経営学講座・車座塾」を開催する。講座終了後にケーススタディを纏めた書籍を出版し周知拡大をする。

《実践経営学講座・車座塾の概要》

- ・ テーマ : 「新事業創造」「事業承継」「人材マネジメント」「経営理念」等
- ・ 内容 : 最大15～20名程度の少人数で、ディスカッション方式で実施
- ・ 開催数 : 6～10ケースを厳選し開催

2) 中堅・中小企業の中核技術人材等の育成に向けた支援

中堅・中小企業の中核専門技術者の技術力強化とスキル向上に有効な教育プログラムの活用促進のための支援を実施する。

(1) 北九州ドクターチャレンジプログラムの活用促進(継)

北九州地域企業の中核技術人材の専門技術力の向上と研究開発の促進を図るため九工大大学院及び北九大国際環境工学部大学院の「長期履修制度」のフォーラム協働企業へのプロモーション活動を実施する。

(2) 北九州テクニカルカレッジプログラムの活用促進(継)

九工大の「学術コンサルティング制度」の活用促進を進めるため、フォーラム協働企業へのプロモーション活動を実施する。

3. 青少年育成プログラム事業の企画、運営

産学連携による早期工学教育の環境づくりを目的として、北九州地域科学・工学教育情報マップ“かがたま”による情報紹介および「北九州ノベーションギャラリー」「北九州企業人による小学校応援団」と連携したものづくり教育の環境づくりを行う。

1) 北九州地域科学・工学教育情報マップ“かがたま”の運営・管理 (継)

2018年度に開設した理工系イベント紹介ウェブサイト「北九州かがくの玉手箱(愛称:かがたま)」の小中学校等教育機関をはじめ、地域や市民の活用促進のための環境づくりを行う。事業運営は、事業参画機関による「“かがたま”運営協議会」で行う。

〈連携教育機関・施設〉

九州工業大学・北九州市立大学・西日本工業大学・北九州工業高等専門学校・北九州市立児童文化科学館・北九州市立いのちの旅博物館・北九州市環境ミュージアム・北九州イノベーションギャラリー・TOTOミュージアム・安川電機みらい館

2) 「北九州イノベーションギャラリー」と連携した事業の企画、開発、モデル化 (継)

「北九州イノベーションギャラリー」と連携して青少年向けのものづくり教育プログラムの企画、開発、試行を行い、ものづくり教育としてのモデル化を進める。

3) 「北九州の企業人による小学校応援団」と連携したものづくり教育の環境づくり (継)

「北九州の企業人による小学校応援団」の出前授業について、フォーラム協働企業(ものづくり企業)を対象に「ものづくり」をテーマとした出前授業の募集を行い、青少年育成プログラムが目指す早期工学教育の環境づくりを多面的に支援する。

4. 産業人材育成の地域クラスター形成に向けた環境整備

フォーラム事業の拡充と持続的発展のための地域システム化を図るため、協働企業の会員化による事業の運営基盤の強化、事業運営のICT化を進めると共に、地域におけるプロモーションを推進する。

1) フォーラム協働企業の有志会員化の推進 (継)

フォーラム協働企業をベースにして、フォーラム事業運営の基盤企業となる有志会員企業の募集、登録を促進する。

2) フォーラム事業の広報システムの構築とプロモーション事業の実施 (継)

産業人材育成フォーラムの連携校、学生及び地域企業に対して事業を周知するために、フォーラム事業を協働する企業経営・管理者と連携校の教員等関係者との交流促進のため「顔の見える産学交流会」(産学交流会等)を開催する。

連携校におけるインターンシップ参加、地元就職促進のための地元企業情報の周知促進ツールとして、北九州地域産業人材育成フォーラムのインターンシップホームページの拡充を行う

令和2年度 産業人材育成フォーラム 予算

(円)

	項目	令和2年度 予算	令和元年度 予算	内 訳	増減
収 入	1)負担金	8,000,000	11,000,000		▲ 3,000,000
	①北九州市	7,000,000	10,000,000		▲ 3,000,000
	②北九州活性化協議会	1,000,000	1,000,000		0
	2)会費	3,015,000	3,400,000		▲ 385,000
	①企業会員	1,530,000	1,800,000	企業負担金 @30,000×51社	▲ 270,000
	②大学・高専	1,300,000	1,300,000	大学等会費(@300,000×4校.@100,000×1校)	0
	③交流会	185,000	300,000	企業研究会、産業人材育成セミナー 会費	▲ 115,000
	3)雑収入	1,810,000	1,770,000		40,000
	①出展料等	1,750,000	1,750,000	企業研究・交流会出展料@35,000×50社	0
	②その他	60,000	20,000	北九州商工会議所企業見学バスツアー補助金等	40,000
③預金利息				0	
4)前年度繰越金	500,000	500,000		0	
	【収入合計】	13,325,000	16,670,000		▲ 3,345,000

	項目	令和2年度 予算	令和元年度 予算	内 訳	増減
支 出	1)人件費	300,000	2,000,000		▲ 1,700,000
	①事業担当人件費	0	1,500,000	事業開発・運営担当	▲ 1,500,000
	②臨時的雇用人件費	300,000	500,000	アルバイト(データ整理・データ入力等)	▲ 200,000
	2)謝金	46,000	200,000		▲ 154,000
	①専門家謝金	46,000	200,000	産業人材育成セミナー、インターンシップ、MBA等講師	▲ 154,000
	3)旅費	250,000	380,000		▲ 130,000
	①旅費等	250,000	200,000		50,000
	近距離旅費		50,000		▲ 50,000
	遠距離旅費		100,000	外部調査・研究(イノベーション推進機構・徳島大学)	▲ 100,000
	タクシー利用料		50,000		▲ 50,000
②専門家招聘旅費		180,000	産業人材育成セミナー講師、インターンシップ、MBA 講師	▲ 180,000	
4)委託料	10,494,000	10,720,000		▲ 226,000	
①KTS業務委託	3,024,000	2,960,000	KTS企業開拓・実践型SP開拓コーディネート業務委託	64,000	
②KPEC業務委託	4,670,000	4,670,000	KPEC事業担当事務職員及び管理人員費一部負担	0	
③その他業務委託	2,800,000	3,090,000	HP制作・企業研究交流会設営業務、その他委託	▲ 290,000	
5)その他経費	2,235,000	3,370,000		▲ 1,135,000	
①会場借上げ料	250,000	550,000	ベストワン企業研究・交流会、人材育成セミナー・会議等	▲ 300,000	
②印刷費	300,000	1,100,000	企業情報誌・ポスター・パンフレット・チラシ及び配布資料	▲ 800,000	
③通信運搬費	35,000	200,000	電話料・サーバー利用料、各種調査票、リフレット郵送料	▲ 165,000	
④事務消耗品費	120,000	250,000	事務用消耗品費 等	▲ 130,000	
⑤会議費	280,000	120,000	会議時飲み物代 等	160,000	
⑥交流会費	150,000	300,000	事業関係交流会経費	▲ 150,000	
⑦使用料及び賃借料	550,000	800,000	見学バス代、各種機器使用料、事務局関係諸費他	▲ 250,000	
⑧雑費	550,000	50,000	振込手数料、その他雑費	500,000	
				0	
6)予備費	0	0		0	
	【支出合計】	13,325,000	16,670,000		▲ 3,345,000

北九州の企業人による小学校応援団
令和 2 年度事業計画書

I 支援事業の推進

企業等の協力を得て、親学推進プロジェクト、講師派遣プロジェクト及び社会体験プロジェクトとして児童への出前授業、教職員・保護者（PTA）向けの研修等を継続実施する。その他、本事業の継続的な発展と円滑化を図るために、市内教育関係者と経済界の連携・協力や交流を促進するための環境プロジェクトを実施する。

1. 親学推進プロジェクト

PTAへの父親参加の促進、企業従業員を対象にした親学推進について、普及に向けた具体策を図ると共に、PTA活動支援についても継続実施する。

1) PTAへの親（社員）のPTA総会など各種事業への参加促進

校長会・PTA協議会・小学校応援団の連盟で小学校応援団参加協力企業に対して、PTA総会や各種事業の案内を配布し、参加促進を図る。

2) 参加協力企業における親学推進

参加協力企業の従業員を対象に、小学校の現況や学校との関わり方等の理解促進を目的とした親学推進事業（出前説明会）を環境の変化の調査を行い実施計画を立てる。

2. 講師派遣プロジェクト

児童を対象とする出前授業、教諭や管理職の研修会への講師派遣等についての環境づくりと支援を行う。

1) 出前授業・研修の継続実施

企業等の協力を得て、児童への出前授業、教職員・保護者（PTA）向けの研修等を継続実施する。

2) 出前授業・研修の業務円滑化の推進

(1) 利用方法の周知徹底

講師企業ごとに、事前の準備及び当日のやり方などが異なるため、利用校が利用方法の把握が難しい場合がある。これらの課題を解消するために、事前・当日の利用方法について、申し込み受け付け時に利用校へ再度通知を行うなど、きめ細やかな対応を徹底する。

(2) ガイドブックの制作と配布

出前授業のテーマ一覧や授業内容及び申込み方法などわかりやすく紹介する「ガイドブック」の制作と配布を継続して行う。また、講師企業への理解度を上げることが、小学校にとって安心して出前授業利用できることに繋がるため、講師企業紹介を企業と相談しながら盛り込む。

3) テーマの拡充に対応した出前授業の環境整備

企業からの出前授業の登録に加え、小学校側の希望テーマに対応した出前授業の

環境づくりを行い、ニーズに対応した出前授業の充実を図る。

(1) 小学校の個々のニーズに対応したオリジナルテーマの継続

2018年度より試験的に実施している、小学校の個々のニーズに対応したオリジナルテーマへ対応する出前授業の実施について、協力企業等の環境を調査し、実施体制の構築を図る。

(2) 新学習指導要領へ対応したテーマ設定

2020年度から新学習指導要領がスタートすることで、小学校のニーズがより多様化する可能性が高い。小学校に対しニーズ調査を行い、ニーズが多いテーマについては固定テーマの設置が可能となるように、講師企業の開拓に努める。

3. 社会体験プロジェクト

児童の社会体験学習の支援・協力や、教諭や学校管理職の研修の受け入れについて、小学校の要請に対応した環境調整と支援事業を行う。

4. 環境づくりプロジェクト

小学校応援団事業の円滑な運営環境を構築するため、市教委等教育関係者と経済界の連携・協力・交流の促進を図る。

1) 小学校長との意見交換会の開催

小学校応援団の支援活動をより実りあるものとして継続実施できるようにするためには、学校現場の意見を直に聞きながら活動を進めることが重要である。小学校長との意見交換会を昨年度に引き続き開催する。

5. 広報の充実化

小学校応援団事業は、北九州地域の企業が協働して、出前授業などを通じて、小学校支援を行う全国的にも珍しく取り組みである。また、文科省が掲げる学校を核とした地域の創生を目指す「次世代の学校・地域」創生プランの実現に向けた具体的な取り組みであり、地域協働の体制づくりが求められる。関係者のみならず、地域に周知する必要があるため、以下の項目について重点的に実施する。

1) 小学校関係者の認知向上と活用促進のための広報の実施

4月にコーディネーターが小学校を訪問し、教員に対して小学校応援団の主旨及び内容、利用方法などの説明を実施し、事業の周知を図る。

2) 地域企業等の認知向上と協力環境の構築のための広報の実施

パンフレットの配布やホームページによる事業紹介を積極的に実施し、企業への周知を図る。

3) 保護者や地域コミュニティ等の理解と協力環境の醸成のための広報の実施

小学校応援団のホームページを更新し、地域コミュニティ等における小学校応援団事業の周知を図る。また、適宜、応援団の活動状況を報道機関に情報提供する。

II 支援体制の充実

1. コーディネーターの組織体制の強化

小学校応援団事業の実施については小学校をサポートし、事務局と学校を繋ぐコーディネーターは必須機能である。しかしながら、コーディネーターの高齢化が進んでいる。継続的なコーディネーターの確保を目指し、新規コーディネーターの募集と育成の強化を行う。

2. 参加協力企業等の拡大

全校（129校）体制に対応した出前授業の実施環境の構築のため、市内の関係機関等の協力を頂きながら参加協力企業の拡充を行う。

III 三者会議の開催

北九州市立小学校の教育支援に関する協定書（平成25年4月1日締結）に基づき、当応援団、北九州市教育委員会及び(公財)北九州活性化協議会との三者調整会議を開催し、支援事業の現状について共通認識を図るとともに、方針に関する調整を行う等、事業の円滑な推進を図る。

北九州の企業人による小学校応援団 令和2年度予算

(2020年4月1日～2021年3月31日)

収入

単位：千円

項目	予算額	説明	参考（2019年度予算額）
負担金	7,500	<負担金拠出額> 北九州市 5,500 北九州活性化協議会 2,000	<負担金拠出額> 北九州市 5,500 北九州活性化協議会 2,000
計	7,500		7,500

支出

項目	予算額	説明	参考（2019年度予算額）
支援事業費	857	講師謝金と 出前授業ガイドブック	772
コーディネータ ー業務費	853	費用弁償等	829
広報・プロモ ーション推進費	738	パンフレット作成等広報 費、ホームページ・システ ムの充実等	899
人件費	4,100	事務局人件費	4,100
事務局経費	952	会議費、交通費、消耗品費、 通信運搬費、事務室等使用 経費等	900
計	7,500		7,500

北九州イノベーションギャラリー
指定管理者事業

令和 2 年度事業計画書

1 基本理念

北九州は、世界遺産である官営八幡製鐵所が生まれた街で日本における近代産業の黎明期から拠点的な工業都市として発展し、やがて北九州工業地帯を形成、時代の変化に呼応した変遷を遂げ、世界に冠たるものづくり大国となった今日の日本の産業構造構築の上で、常に極めて重要な役割を担ってきた。

北九州イノベーションギャラリー（産業技術保存継承センター）は、当地固有の歴史的風土がそこに根ざした多くの企業のたゆまない努力から生み出された技術革新～「イノベーション」の積み重ねの中で育まれてきたことを見つめ、そこに蓄積してきた「人材」「技術」「産業遺産」の3つの資産を活用しながら、明日の北九州、ひいては日本を支える新たなイノベーションへとつながる（1）人材活用・育成、（2）産業技術の保存継承（技術の知と心の継承）及び世界遺産を含む産業遺産の情報発信、（3）技術革新（イノベーション）の機会創出を図っていく。

2 基本方針

◆地域において培われた産業技術とその心を継承する。

日本が先進工業国へと成長する過程で、北九州は数多くの技術革新を経験し、技術・技能やこれらを支える経営・管理ノウハウ等膨大な知見を蓄積してきた。これらの財産を可能な限り調査し、保存・継承に努める。また、世界遺産を始めとする産業遺産の展示等を通して日本の近代化を支えたまち「北九州」への誇りともものづくりへの興味につなげる。

◆イノベーションを促進する環境を整え、イノベーターを育成する。

優秀な技術者、熟練技能者、デザイナーおよび大学の研究者等と連携し、技術動向やデザイン等の情報を提供するとともに、産学官の技術交流の場を提供することで、産業技術に対して幅広い視野を有し、知識融合等によるイノベーションを推進しうる人材の養成に取り組む。また、社会人再教育として、実践に必要な幅広い基礎知識の強化に取り組む。

◆次世代イノベーターを育成する。

産業技術や基礎科学の重要性について、青少年の理解を高め、技術やデザインへの探究心を育む。

◆技術者OBの経験を活かす。

北九州市には、技術革新に関わった技術者が多く在住している。彼らの経験を活用し、技術の知と心の継承を行う。

◆多様なネットワークを構築する。

地域の企業および大学等高等教育機関のみならず、内外の博物館や研究機関と連携することで、高度な専門性を確保しつつ、サービスの内容や質の向上を図る。

◆固有の価値・魅力を発信する。

「イノベーションをテーマにした国内唯一の施設」としての当施設の独自性、魅力を高め、それを内外に発信していく。

1 方針

施設の管理運営にあたっては、次の方針に沿って効率化や事業内容の充実を図る。

(1) 業務分担と責任体制の明確化及び適切な人材配置

全体を統括する館長のもと事務局長と各部門責任者である室長及び部長を配置するとともに、担当業務と責任体制を明確にし、的確に業務を実施していく。また、必要な専門知識や経験等を持った人材を適所に配置し、企画力・運営力の強化を図り、効率的な施設運営や円滑な事業遂行に努める。

(2) 地域の大学や企業、類似施設との連携による企画力の向上

地域の大学や企業及び国立科学博物館等の類似施設との連携を図るとともに、地域の専門家や優れた人材を積極的に活用し、教育普及、調査研究、展示事業等の企画面の充実と専門性の向上を図る。

(3) スタッフへの各種研修の実施

来館者に心地よい雰囲気と安心・安全な環境を提供するため、必要な事前研修を行い、運営業務全般に必要な知識とスキルを教育し、オールラウンドなスタッフを育成する。

また、定期的な研修や合同ミーティング等を通して利用者の立場に立ったサービスの提供が出来るように個人および組織の質の向上に努める。

2 運営組織図

館長 (宇佐見 昇) [全体統括]	M : マネージャーの略
副館長 (古賀 敬三) [館長業務代行 全体統括]	
・事務局長 (田代 俊悟) [館長・副館長補佐・管理業務の総括(施設維持を含む)]	
・総務・経理M (松延 礼佳) [総務・経理業務及び展示業務の補佐]	
・企画運営室長 (田端 尚和) [事業全般の企画・運営・広報の総括、情報システムの総括]	
・広報・集客M (森永 昭宏) [広報、集客業務全般の立案・推進・管理等]	
・運営M (梶原 美由紀) [運営業務、アテンダント連携業務、団体・貸室の管理等]	
・企画M (片峰 陽子) [展示事業の立案・実施、広報・WEB管理]	
・アテンダント (委託) [総合案内、券売、接客等]	
・事業推進室長 (園田 澄利) [教育普及事業の企画・開発、関係団体との調整等] [調査研究、映像制作、図書管理の総括]	
・事業推進室次長兼教育普及推進部長 (藤武 孝) [教育普及事業の企画・開発]	
・教育普及M (高田 麻菜) [デジタル工房企画運営、アンケート集計業務等]	
・教育普及M (大森 悠佳) [デジタル工房企画運営、アンケート集計業務等]	
・工房長(村上 英俊) [工房業務総括・管理指導、施設管理等]	
・調査研究M (久多良木 献) [調査研究業務]	
・ライブラリーM (大脇 希[派遣職員]) [図書管理業務]	

◆資格等保有者

- ・甲種防火管理者：田端 尚和

II 実施体制

- ・一級建築士：藤武 孝
- ・ハングル語能力検定4級：森永 昭宏
- ・ものづくりマイスター(厚生労働省)、技能五輪全日本大会「機械組立」優勝者、
職業訓練法指導員免許(機械科)、：村上 英俊
- ・学芸員：松延 礼佳
- ・司書：大脇 希

1 実施計画(スケジュール)

(1) 令和2年度取り組み目標

◆入館者数	68,000人
◆企画展観覧者数	26,000人
◆教育普及プログラム参加者数	13,500人
◆利用者アンケート満足度	施設全般 86%
	教育プログラム 97%
	企画展 87%

(2) スケジュール

(3) 産業技術の保存継承及び世界遺産を含む産業遺産の情報発信

世界遺産担当部署と連携し、多目的ホール、年表ギャラリー等において、世界遺産を含む産業遺産の展示等を行なう。また、ラウンジにおいてもスペースを有効に活用し、産業遺産に関連した写真展等を行なう。

2 教育普及に関する事業

(1) 令和2年度取り組み方針

次世代の北九州を支えるイノベーターの創出を目的に、小・中・高校生等を重点対象とした「科学・技術教育」や「ものづくり教育」プログラムを開発し、実施するとともに、企業技術者や研究者、大学生、工業高等学校生等の交流の場を創出し、高度技術人材育成環境の構築を推進する。企画・推進に当たっては各種教育・研究機関、企業等と連携して効果的な人材育成の企画を行っていく。

また、幅広い世代の市民に「学び」や「ものづくり」の楽しさを提供していくために、平日を含め新たな講座やワークショップ等を企画、提供し、企画展との相乗効果による新規の来館者増へとつなげる。

さらに、北九州市の要請に基づき、北九州マイスターや技の達人との連携と活用による「技能・技術の継承」を推進する「技能教育」を継続していく。

これらを踏まえて、組織一体となって教育普及事業の計画と実行を行う。

(2) 令和2年度実施事業

上記取り組み方針に基づき、教育普及の対象者に適したテーマ、内容、開催時期等を十分検討し、下記事業を実施していく。企画した教育普及事業を広く市民に周知し活用を促すために、市政だより、ホームページ、メールマガジン、各種紙媒体等活用し、広報やプロモーションを実施していく。

①イノベーション啓発事業の企画・実施

青少年から社会人、そして一般市民等の各世代に対する各種事業を推進することで、次世代イノベーターの創出と育成に向けた活動を行う。

ア イノベーションフォーラムの企画、開催(年1回)

次世代のイノベーターの育成を目的に、産業界や現代社会における技術動向や関心が高いと考えられるテーマと講師を選定し、「イノベーションフォーラム」を企画、開

催する。

イ 地域ものづくり未来フォーラムの企画、開催(年1回)

地域のものづくりの現状や課題等について、広く意見交換する集いを継続開催する。

ウ 企画展や特別展に連動した講演(年4回以上)や上映(適宜)

開催する企画展や特別展に併せ、関連知識を広くする、あるいは、理解を深めるテーマを選定し、それにふさわしい講師を招いた講演・対談等を開催する。あわせて、それらに関わる映像を選択・収集し公開する上映イベントも行う。

エ 技術革新セミナー(年2回程度)

科学・技術分野における最先端のイノベーションや歴史的評価が高いイノベーション等の中から学生、技術者そして一般市民が関心を持つような具体的な技術革新事例等を取り上げたセミナーを企画し開催する。

オ デザインセミナー(年2回程度)

デザインに関する実技中心の講座、ワークショップについて、世代別に企画し実施する。

②企業人や市民、学生向けに実施する事業

ア ものづくりセミナー(年5回程度)

市内の高等学校・大学を中心とし、技術・技能、産業史、安全教育等個別ニーズに応じた講師派遣やアウトリーチを展開し、施設の存在価値や有効性を高める。

イ 市民セミナー(年4回程度)

これまで比較的好評であった分野(歴史・産業史、地元企業の研究開発)やくらしに関わる身近なテーマ等を中心に、誰もが興味を抱ける分かりやすい講座として実施する。

ウ イノベーション見学ツアー(年4回程度)

他ツアーとの差別化を図るため、あまり取り上げられない地元の工場や施設、史跡等の解説付き見学を主体に、親子向けのテーマ・コース等も盛り込みながら提供していく。

エ 中学生を中心とする体験型イベント等

(ア) 企業見学ツアー…近隣メーカーや工場等と連携し、社会にふれる場を提供する。

(イ) 職場体験(インターンシップ)…当施設での就業体験を通じて、ものづくりを軸とした勤労観や職業観の醸成を図る。

オ その他(地域の周辺団体等と連携し、普及に取り組むもの)

ア) KIGS倶楽部

帆船模型との継続的コラボレーションを行う。

(イ) 共催セミナー、イベント等(適宜)

市民カレッジや技術士会をはじめとする各種団体やイベントとの共催について、行政や団体等と協力し、相乗効果を共有できる連携事業を積極的に実施していく。

③科学・工学にチャレンジする心を育む実践的な教室、ワークショップの企画・実施

青少年が科学や工学に興味や関心を持つきっかけになるような各種事業を企画・推進し、論理的思考やものづくりマインドの醸成を図る。

ア 「ものづくり教室」の充実と拡大

(ア) デジタルものづくり教室の企画・実施拡大

デジタル工房機能を活用し、トレンドに呼応したワークショッププログラムを開発していく。また、近隣のレジャー施設等へのアウトリーチを積極的に行い、新たな顧客層の発掘にも取り組んでいく。推進にあたっては、近隣のFablabや教材企業等との情報共有や協業を図りながら推進していく。

(イ) 大学、企業、教育団体と連携したワークショッププログラムの企画開発、推進
九州工業大学を中心として北九州市内の工学系大学生が企画し、実施するワークショップの継続的実施と連携の充実を図る。また、地域のものづくり企業、教育団体の強み、コンテンツを活かしたワークショップを継続して実施することで発想豊かな活動を推進する。

(ウ) 企画展と連動した「ものづくりミニ体験」の充実、拡充

利用者が多く、満足度も高い「ミニ体験」を昨年度と同様に継続し、企画展期間外での開催もプログラムアレンジを行いながら実施していく。また、年に一度、人気のあったメニューが一同に介する「フェア」を行い、普及拡大を図る。

イ プログラミング教育のための教室やワークショップの開発・推進

今年度も小学生を対象とした理科教育やプログラミングに関わる教室、ワークショップを教育専門団体と連携しながらコンテンツを開発し、推進していく。

ウ 「東田たたらプロジェクト」の継続実施

(鉄の日の本操業体験、春休み前の製品化工作)

関連企業や工学系大学等とも連携し、古代たたら製鉄の体験事業を継続実施する。

エ 「東田サマースクール」の継続実施(夏期休暇期間中に3クール行う3館連携事業)

夏季休暇を利用し、環境ミュージアムやいのちのたび博物館と連携した4日間連続の体験プログラムを3回実施する。ものづくりのやりがいや楽しさを小学生に体感してもらう。

オ 「世界一行きたい科学広場 in 北九州」の継続実施(夏期休暇期間中の土日)

3館や周辺施設を舞台とし、小学生親子を主対象とする実験や実演、工作等を地域の学校や団体等と連携し2日間実施し、夏休みの宿題対策や思い出作りに寄与する。

カ 団体向け講習への対応

来館者や利用者の増加を図るため、修学旅行や企業研修等の誘致活動とあわせて、より魅力を感じるものづくり体験プログラム(ものづくりミニ体験など)を企画し、実施する。また、各地からの世界遺産関連ツアー等の需要にも対応していく。

(ア) 企業・一般団体向けプログラム(適宜)

年表ギャラリー、企画展、産業映像上映、工房等の施設を活用し、企業研修をはじめとした企業・団体への教育プログラムを実施する。

(イ) 学校団体向け体験学習プログラム(適宜)

年表ギャラリー、企画展、産業映像上映、工房等の施設を活用した学習と、ものづくり体験、東田第一高炉見学、隣接の博物館見学等も組み合わせた学校向けプログラムを実施する。

④北九州マイスター、北九州技の達人による技能継承事業の企画・実施

ア 実践的技能研修のプログラム開発と企画運営

- (ア) 北九州マイスターの積極的活用による技能レベル向上を目的に工房等で工業高等学校生向けの技能向上研修を積極的に実施するとともに、各学校への北九州マイスター派遣による技能伝承活動等の事業も実施する。
- (イ) 北九州技の達人と連携するイベントや展示等も積極的に実施していく。

3 調査研究に関する事業

(1) 令和2年度の取り組み方針

本来、調査研究事業は、翌年度に、その成果について公開したり、継承活動を行ったりしているが、令和3年度の事業継続が未確定である。従って、新科学館への移行を念頭に、令和2年度内に完結する下記のような調査研究に関する活動を実施する。

(2) 令和2年度実施事業

①調査研究

国立科学博物館 産業技術史資料情報センターと産業技術に関する共同調査研究を行う。テーマ選定に当たっては、これまで本格的調査が行われていない日本の代表的産業技術を広くサーベイした上で、できるだけ北九州と関連する製品、技術を取り上げることとする。調査研究成果は当年度内に公開できるように努める。

②調査研究成果の普及、継承

ア 平成31年度～令和元年度に実施した下記調査研究成果を、調査研究者による報告会や報告書の配付等を通じて、多くの調査研究テーマ関連機関及び北九州市民へ紹介し、調査研究内容の継承と当該テーマ研究開発の活性化を促進する。

- ・「北九州におけるリサイクル技術の歴史と発展」(自主研究)
- ・「北九州における水ビジネス海外展開の歴史と発展」(自主研究)
- ・「北九州における近現代建築物の地域資源価値の考察」(自主研究)
- ・「ベアリング技術の系統化調査研究」(共同研究)

イ 14年間のKIGS調査研究活動成果を冊子としてまとめ、調査研究報告書一式とともに北九州市立図書館の蔵書とし、研究者、教育者および調査研究内容に関心のある一般人が閲覧できるようにする。

4 企画展示に関する事業

産業技術の保存継承(技術の知と心の継承)、技術革新(イノベーション)の機会の創出に資する各分野の技術を地域に披瀝する企画展を、年間3回以上企画し開催する。開催にあたっては、関連する講演会、ワークショップ、イベント等も併催し事業成果向上を目指す。

貸室としての世界文化遺産関連の常設展も継続し、他地域からのツアー企画等呼び込む。

(1) 令和2年度取り組み方針

企画展については、昨今より広く関心を誘うテーマを選択し、親しみやすく判りやすい切り口で、楽しみながら学べる内容で展開し、来館層拡大と観覧者数増大を果たすことができた。

本年度については、その路線を踏襲しながらこれまで取り上げていないテーマやこれまで評判の良かったテーマを発展形として再度取り上げる。秋については、東田3館で連携するテーマを採択し相乗効果を得る。

①計画・立案

- ・話題性の高い幅広く楽しみ学べる内容で判り易く興味深い構成とする。
- ・独自の切り口と統一感あるテイストで展開し、観覧意欲を誘発する仕立てを行う。
- ・最小の出資で最大の効果を得るよう、再委託先選定等含め早目に的確に準備を進める。
- ・過去にうまくいった点を踏襲し、効果的かつ効率的な展示となるよう構築していく。

②企画・運営

- ・地元や未来についてのゾーンを配置するとともに、体験・体感重視の展示とする。
- ・シーズン毎に適切なレイアウトや装飾を施し、ゾーニングにもメリハリをつける。
- ・場内ガイドの強化、クイズラリーや体験イベントの併催等、付加価値向上を図る。

(2) 令和2年度の企画展

①実施時期及びテーマ

区分	開催期間	分野	テーマ(仮称)	概要
春	令和2年 4月25日～ 7月5日	民生	「キッチングッズ展」	幅広く関心をそそる身近なテーマを取り上げ、その知恵と工夫や進化について、分かり易く賑やかに紹介していく。
夏	令和2年 7月20日～ 9月29日	民生	「大人も楽しい～今昔おもちゃ展」	玩具類のイノベーションについて、ジャンル別に今昔比較し、家族皆が楽しめる体感中心型展示とする。
秋	令和2年 10月10日～ 11月25日	3館連携	「北九州・産業都市の軌跡～技術編」	いのちのたび博物館→歴史、環境ミュージアム→都市文化に倣い、地元企業の産業発展について興味深く展開する。
冬	令和2年 12月～ 翌年2月末	巡回展等	*未定	当館の展示テーマに合う、話題性の高い巡回展等を誘致する。

②観覧料

企画展の観覧料は、大人300円・小人100円を基本とし、満足度向上と観覧者数増につなげる。ただし、夏期は見応えのある内容に見合う観覧料設定とする。

(3) 世界遺産の情報発信、スペースの有効活用や物販コーナーの設置

7月に登録5周年を迎える世界遺産の関連展示のアピールを強化する。また、多目的スペース・ラウンジ等の空きスペースを利用した連動展・特別展の実施について積極的に進める。関連する物品販売等についても、利用者サービス拡充の観点から前向きに展開していく。

5 図書・映像等収集及び公開に関する業務

(1) 令和2年度取り組み方針

これまで科学、産業技術、デザイン分野等の図書・映像を広い世代向けに収集、公開してきた。令和2年度は、新科学館への移行を念頭に、子供の教育・学習を支援する図書・映像に少しずつ重点を移しながら収集・公開を進めていく。

(2) 令和2年度実施事業

① 図書、雑誌、資料等の収集・公開と蔵書の整備

当施設の目的と利用者の活用実績を確認し、図書の購入及び資料の収集計画を編成し、図書及び情報資料の収集と整理を行う。中でも、子供向けの科学・技術図書の充実と整備を図っていく。また、新科学館への移管を想定し、蔵書の棚卸及び整理を行う。利用促進については、ホームページへの新着本情報掲載およびメールマガジンでの告知等を行い、リピーターを含めた利用者の継続的拡大を図る。

② 映像の公開と所有映像の整備

ア 映像の公開

・新作映像の上映会開催

令和元年度に制作した「わたしの北九州～近代産業発祥の地に刻まれた近現代建築を訪ねて」を北九州市民に広くPRし、制作披露上映会を開催する。

・過去に制作した映像の上映会開催

企画展や各種講演、イベントと連携した解説付きの上映会を開催する。団体客に対しては、その訪問目的に応じたテーマの映像を組み込む。

・映像データ貸出等の利用促進

ファイリングしている映像データの活用として、関係機関への情報提供による活用促進と共に、当施設の広報活動の中で地域への周知を図る。

・ユーチューブによる配信

令和元年度に制作した映像「わたしの北九州～近代産業発祥の地に刻まれた近現代建築を訪ねて」をユーチューブで配信する。

イ 映像の整備

開館以来、館内で開催してきた講演会、セミナー等の記録映像を再利用しやすい形態にしてハードディスクに整理・保存する。